福井の海藻産業を持続させるには　　　　　工学部　一年　渡辺悠斗

こんにちは。僕は工学部一年の渡辺悠斗です。今回は「福井の海藻産業を持続させるために必要なこと、私の主張」というテーマの発表をしたいと思います。この講義を通じて福井の海藻産業と言えばやはり昆布、ということで昆布中心に話を進めていきたいと思います。まず、福井の海藻産業と言えば、以前私たちは福井の昆布産業の歴史や福井の昆布産業が福井の食文化に与えた影響などについて予習しました。そして、第7回目の講義では、実際に福井の昆布産業に携わる職人や事業者の方に現在の福井、日本の昆布業界の実態をお伺いすることができました。（自分は以前から昆布の生産量が激減しているぐらいの情報は知っていたものの、生まれてきてから日常生活で昆布や海藻を食べなくなったというイメージはなかったので、職人さんたちの話を聞いたときは驚きが多かったです。）現状としてはおぼろ昆布など職人の数が減り、後継者不足に悩まされているというものがありました。職人が減り、売られる昆布が少なくなり、そしてまた職人が減るという繰り返しで、なかなか改善が難しいと感じました。そして昆布産業はこうした職人不足による伝統食の衰退が予想されるだけでなく、昆布の生産量が減っているという大きな問題があります。伝統食と同じように昆布の生産が減り、売られる昆布が少なくなり、そして昆布の生産量が減る。つまり、昆布の需要が減っているということです。実際には供給が減り、それに合わせて需要が減るという流れだと思いますが、どちらにせよ、日本全体、福井の昆布産業は衰退しているというのが現状です。（日本の昆布産業は鎌倉時代までさかのぼって、伝統的に北海道からの交易船を通じて全国に広まっていきました。その中継先の一つの敦賀は昆布産業がとても栄えました。京都や大阪などに高品質な昆布を卸した、おぼろ昆布などの加工品も福井の昆布産業を発展させました。しかし、先ほど述べたように現在の昆布の生産量は減少し、福井の昆布産業も衰退してきています。）

それでは本題に入ります。私たちは福井の昆布産業を持続させるためにどうすればいいのでしょうか。第一は昆布の生産量を増やすことだと思います。ないものは買えない、あれば買うかもしれない。昆布の生産量が減少している原因はさまざまですが、一番は気候変動、そして海洋環境の変化が大きなものであると予測されています。具体的に説明すると、主に北海道で採れるいろいろな昆布の分布域が北上し、生産量が減少しています。海水温の上昇によるものだと言われていますが、真相はわかりません。では、昆布の生産量を増やすにはどうすればいいのでしょうか。それは養殖です。天然の物が取れないのならば養殖をすればいいんです。しかし、養殖をすればいいと言ってもいろいろな問題があります。人手問題、そもそも天然物がないと養殖ができない、養殖環境の整備など、課題はたくさんあります。天然物に関しては養殖元になる胞子を生産するための種昆布というもので対応はできるようになってはいます。しかし、人手問題、環境の整備に関してはなかなか解決が難しいと思います。そして人手問題というのは福井の昆布産業に大きく関わる職人たちの後継者不足という問題にも繋がりがあります。ということはつまり、この全ての問題を解決するための第一歩となるのは人々に昆布に興味を持ってもらうということだと僕は考えます。なにかを始める時には誰かの協力が必要で、その人数は多ければ多いほどよくなります。興味を持つ人が増えれば、そこには協力する人が出てきて、さらに発展していってもっと興味を持つ人が増えていくことでどんどん広がっていきます。例をあげるなら、講義にzoomで出演していただいた甚太さんのように、職人さんの様子を実際に見てもらい、その技術を肌で体験できるような機会を設けたり、同じくzoomで出演していただいた船橋さんのような、昆布業界を盛り上げてくれる人の活動について調べてみたり、いろいろな人に知ってもらえるように広めることもいいと思います。

　そして、似たような例で僕が興味を持ったのは、キーワードにあった「世界・日本」、そして「ファストフード」です。最初の方に、昆布自体の需要が減っていると言いましたが、それなら昆布の需要を増やせばいいということで、新しい試みとして、昆布を使った新しい料理、または既存の料理に付け加える形で、新しい商品をつくり、それを販売することで昆布の需要拡大につながるのではないかと考えました。もちろん新たな商品を開発するということは簡単なことではないし、長い時間がかかると思います。しかし、需要が拡大すれば生産量増加にも繋がると思うので、長期的に見ても利点はあると思います。それに、商品開発に携わってもらう食品メーカーや使用する昆布の生産に関わる漁師、職人、研究者の方々の開発の過程などをprすることで、いろいろな方の協力を得たり、消費者の興味を引いたりすることができるのではないかと思います。このようなことを実際に進める事ができたら、福井、そして日本の昆布、海藻産業の持続につながる事ができるのではないかと思います。そして、今私たちが直接できることは何かというと、やはり昆布などの海藻を手に取り、そして今現在の海藻産業の現状に目を向けて、その実態について知ることだと思います。以上で僕の発表を終わります。